

①：「原子力発電の安全に携わっている多くの人は最善を尽くしており、改善の余地はあまりない」「問題だったのは国民への説明方法だ。『基準地震動を超えるような地震は現実には起きないから原子炉は安全』という説明は安易すぎた」

■■現状で改善の余地はないなら、原発止めてください。説明の問題でなく、想定したくないことは無いことにするという〈認識〉の誤りの問題なのだ。

②：「原子力安全の規制行為について、リスクの大きさに応じて資源を投入していくという考え方を取り入れることは大切だ。しかし、リスクは客観的なようで、ある種の割り切りでもある」

（2009年5月8日「電気新聞」原子力安全委員会委員長インタビューより）

■■リスクは計算しだいで、どうにでもなる？

③：「原子力は国民の生活に不可欠なエネルギー源です」「原子力エネルギーのさらなる飛躍に挑戦していきます」「これまで同様、安全確保の徹底と現場重視の精神のもと、  
・皆様からの心強い信頼を獲得できるよう取り組んでまいります。」

（2011年4月1日、川村湊『福島原発人災記』現代書館より）

■■福島原発事故が進行しているさなかの文がこれだ。今回の事故への反省はかけらもない!彼らに任せると第二・第三の原発事故が必ず起きる!!